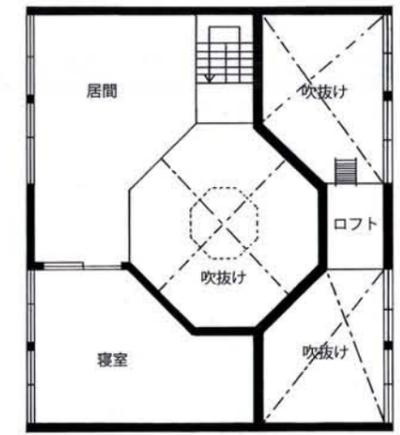


画回廊

若く人気が出始めた画家とその妻、その息子の三人家族が住んでいる住宅を設計した。私は、住宅の塀と外壁の狭い隙間の空き地に着目し、その隙間の空き地を有効活用できる住宅を考えた。この住宅は、塀と外壁の隙間を広くすることで、回廊のような見学スペースを生み出し、画家が自分の作品を世に知ってもらおうと同時に息子の友達や地域の人々とのふれあいの中心となるような住宅である。塀を黒板にすることで塀と外壁の隙間の空き地によって生まれた回廊をより有効に活用している。住宅を囲う塀は間隔を空けることで、画家の作品を、家の正面から見て興味を持った人が自由に入り、見て回れるようになっている。この空間では、子供たちの絵画コンテストや展覧会などが定期的で開催され賑わう。画家はその賑わいと中庭を隔てたアトリエでそういった賑やかな人々のいきいきとした姿や、中庭の自然などを描く。

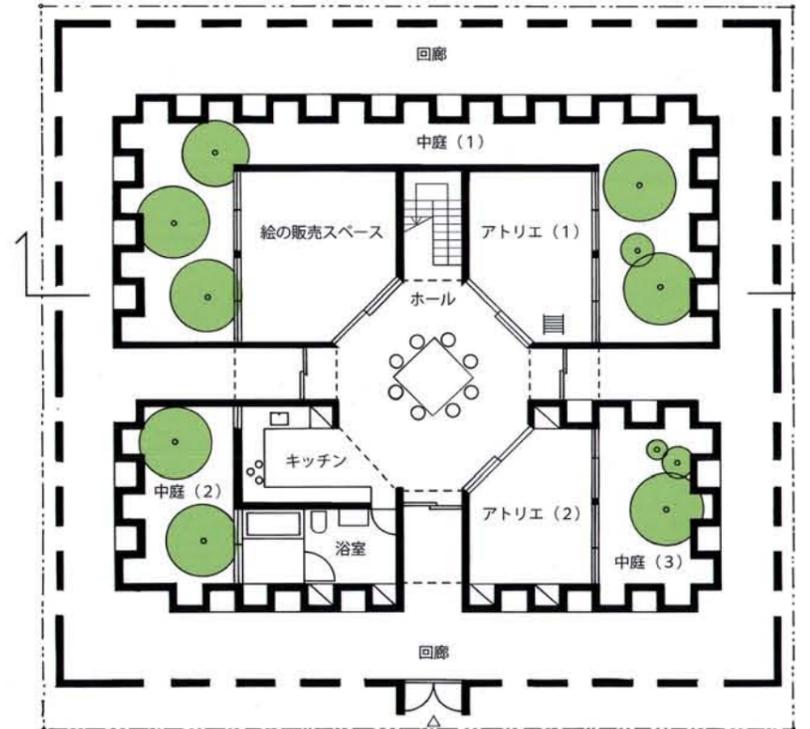


2階平面図 縮尺 1/150

コンセプトイメージ

床は回廊と同じ土間を使うことで、履替えなしで家にあがることができる。これによって、回廊に来てくれた人を家の中に気軽に招き入れることができ、意見を聞いたり感想を話し合うことが可能になる。

周りを囲う黒板は、訪れる人のフリースペースとして開放し、息子や地域の子供たちなどの描く幼き芸術科の卵たちの作品にも親しむことができるようになっている。また、触れ合うのは絵画とだけではなく、黒板を話し合いや勉強に使うことで、人と人とのふれあいの場となる。

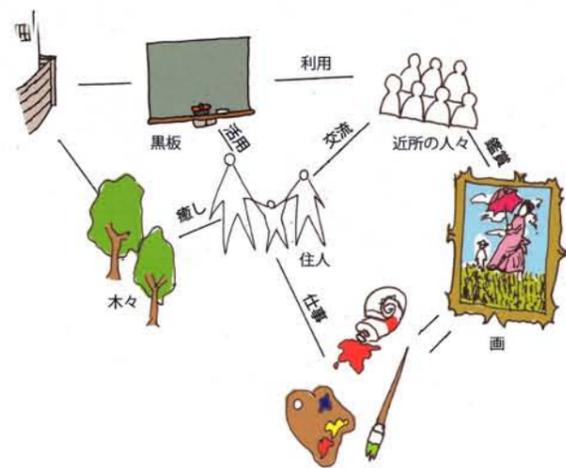


1階平面図 縮尺 1/150

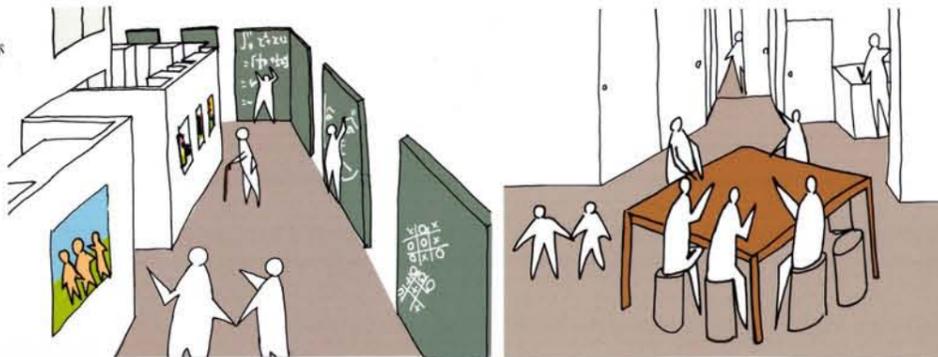
ホールは地域のミーティングやパーティーなどに使うことができ、賑やかな空間となる。プライベートな空間は階を隔てることで公私を分け快適に暮らすことができる。

ジグザグ型の外壁の凹部を絵画の展示スペースにすることで屋外空間での展示が可能となり、また、訪れた人達の好奇心をくすぐる。それにより、誰もが気軽に絵画に親しむ空間が形成される。さらに、屋内において、凹凸によって生まれる空間は収納としても利用することができる。

外壁と塀 隙間の空き地

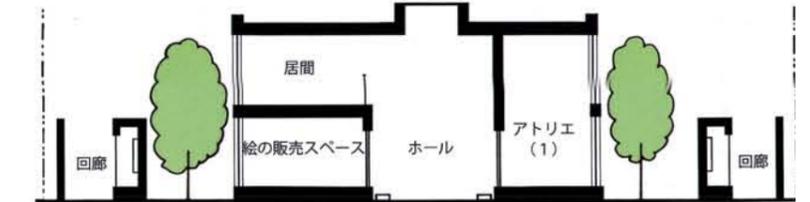


人がひとり通れるかどうかで雑草が生えてしまいがちな塀と外壁の間の空き地を人が十分に通れる広さに広げ、土間を敷くことで回廊の見学スペースとして生まれ変わる。

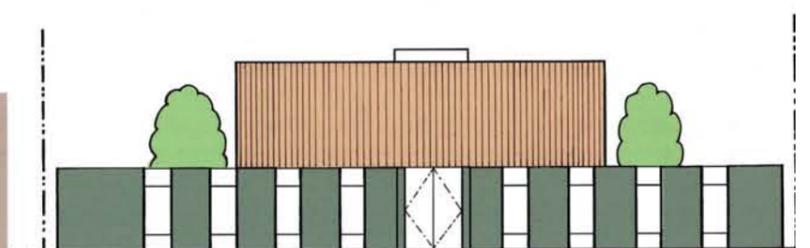


回廊イメージ

ホールイメージ



断面図 縮尺 1/150



南側立面図 縮尺 1/150